

永平寺町 洪水ハザードマップ (全域)

はじめに

わたしたちが住む周辺には、さまざまな災害リスクが潜んでいます。災害時には、これらの身近な自然がその姿を変えて襲ってきます。

このハザードマップには、災害に備える様々な知識が載っています。身を守るために、ぜひご活用下さい。

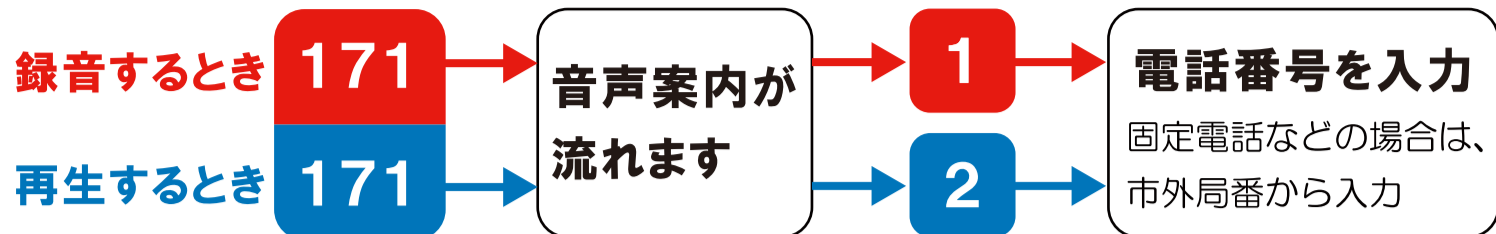
活用方法

- マップ面を見よう**
マップ面(裏面)を見て、自宅を確認し、印をつけてみましょう。
- 情報面を見よう**
情報面(表面)を確認し、避難する際に注意することや、情報の入手先などを学びましょう。
- 歩いてみよう**
マップを手に、自宅から避難場所まで歩き、気づいたことをメモしましょう。

お問い合わせ先 永平寺町 建設課 〒910-1192 永平寺町松岡春日1-4
TEL: 0776-61-1111 (代表) 0776-61-3948 (直通)

災害伝言ダイヤルの利用方法

災害発生時には、災害伝言ダイヤルサービスが使用できます。被災した場合の安否の確認や連絡などに活用できます。利用する際の事前の予約は不要です。



永平寺町地震ハザードマップの紹介

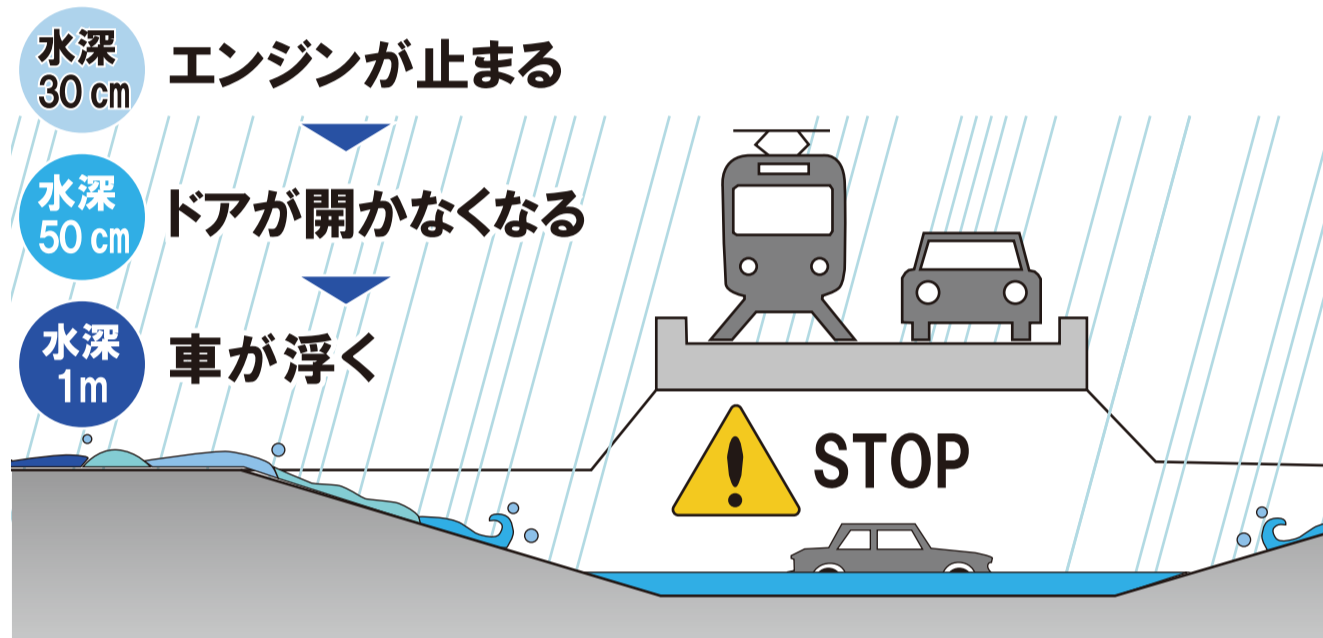
永平寺町地震ハザードマップは、地震発生時に想定される震度を示した「揺れやすさマップ」と、その揺れによる建築物の全壊する割合を示した「地域の危険度マップ」が掲載されています。確認してみましょう。



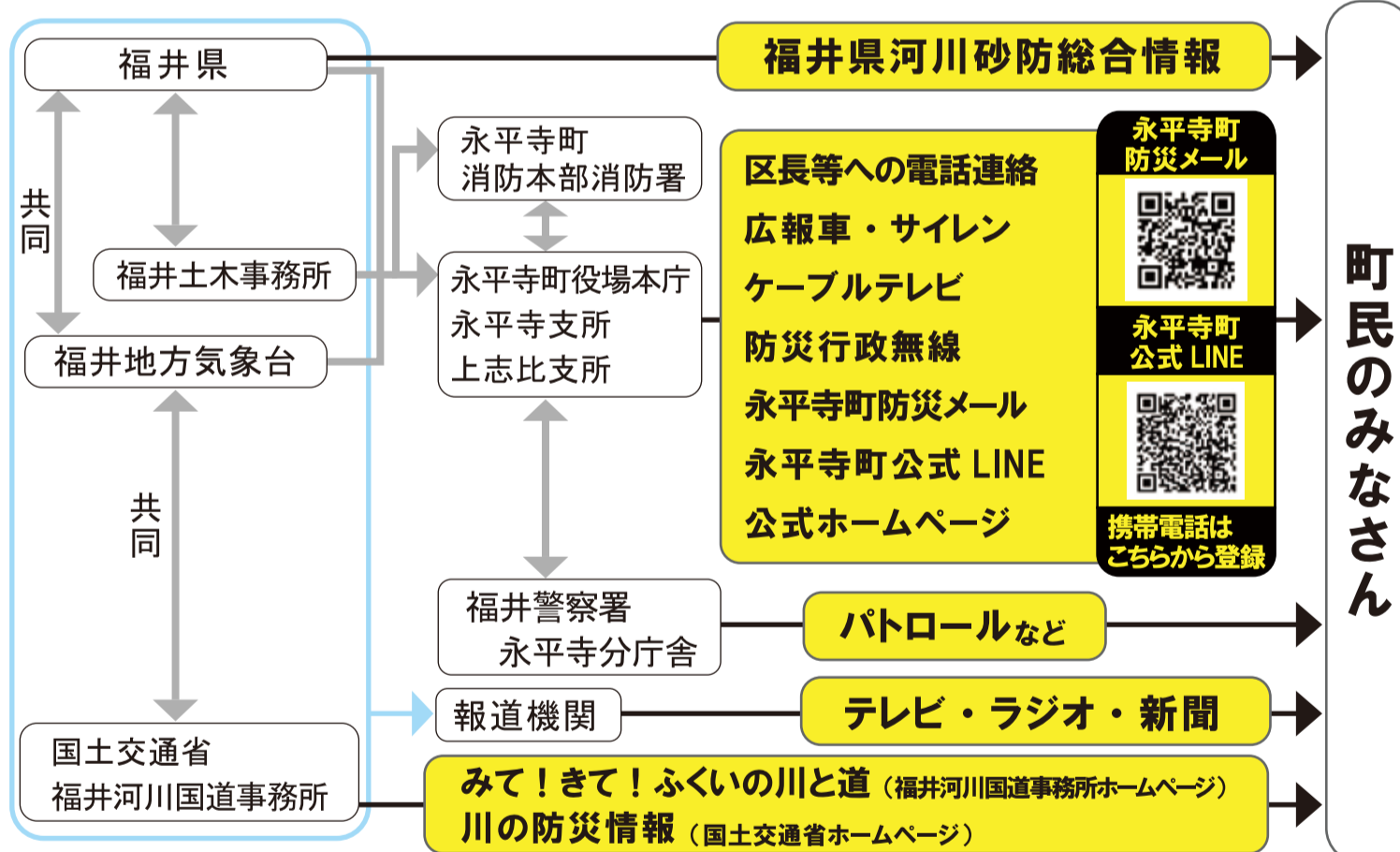
アンダーパスにご注意！

アンダーパスとは、道路や線路などの下をくぐるもののうち、周囲より低くなっている箇所のことです。車で移動中に大雨となった場合は、アンダーパスが冠水することも予想されます。大変危険ですので、侵入はやめましょう。

注意 地域のアンダーパスの位置を把握し、冠水に備えて迂回路を考えておきましょう。



情報の伝わり方・入手方法



情報の入手方法

注意 豪雨時などに河川や斜面の状況を直接確認しに行くのは大変危険です。避難の際に必要な雨量などの情報は、テレビやインターネットなどで安全に入手しましょう。

1. 町内に出された災害情報が知りたいとき

・永平寺町公式ホームページ **QRコードをチェック!**
町が発表する避難勧告などの避難情報や、開設されている避難所などの情報を確認することができます。



2. 雨量や河川の状況が知りたいとき

・福井県河川・砂防総合情報 **QRコードをチェック!**
県内の各所に設置された計測装置で観測された降雨量や河川の水位などをリアルタイムで確認することができます。



3. 土砂災害の危険性が知りたいとき

・福井県土砂災害危険度情報 **QRコードをチェック!**
町民のみなさんの自主避難の参考となるよう、福井県と福井地方気象台が共同で発表する、土砂災害に関する情報です。土砂災害の危険性が、地図上に色分けして表示されます。



避難する際の心得

避難する際は、まわりの人へのちょっとした気遣いや、避難時の服装や装備、避難路上の危険箇所の把握を行うことが重要です。

人とのつながりを大切に

わたしたちの身のまわりには、一人暮らしや障がい者、外国人など、多様な人々が同じ環境で暮らしています。このような多様な人々が災害の時に安全に避難できるようにすることが重要です。近隣住民と協力して避難しましょう。

- ・高齢者、病人 ⇒ 声をかけて、サポートしてほしい方法を聞いて支援しましょう。
- ・車いすの方 ⇒ 介助協力者は、階段や坂は、上りは前向きで、下りは後ろ向きで移動しましょう。
- ・耳が不自由な方 ⇒ 手話、身振り、メモなどで伝えましょう。
- ・目が不自由な方 ⇒ 声をかけ、二の腕や肩に触れてもらい、半歩前を歩いて誘導しましょう。
- ・旅行者、外国人 ⇒ 身振りや優しい日本語を使って、意思疎通を図りましょう。

ためらわずに声をかけをしましょう。ちょっとした勇気や気づかいが助けになります。中小河川では短時間で急激に水位が上昇しますので、手遅れになる前に警報発令などの時点で、早めに声をかけをしましょう。

安全に避難するために

動きやすい服装で避難

長袖・長ズボンで避難しましょう。そして、非常持ち出し品等の荷物は最小限で避難しましょう。

棒を杖替わりにして足元を確認

マンホールが開いていたり、障害物が落ちていたりしている可能性があるため、確認しながら歩くために必要です。

2人以上で避難

家族やご近所さんと一緒に複数人で避難するようしましょう。

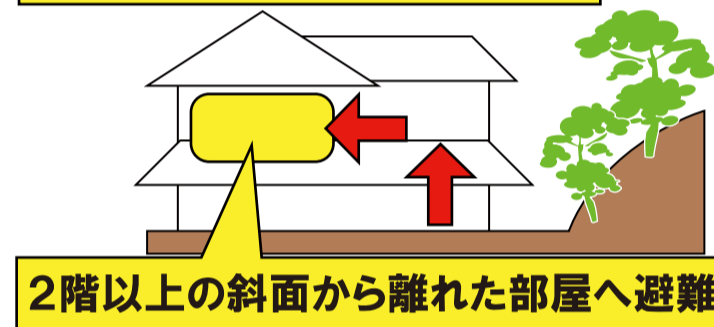
水位を確認

膝上まで浸水している場合は、歩いての避難は困難です。無理をせず、高いところで救助を待ちましょう。

万が一逃げ遅れた場合は…

大雨などで安全な場所までの避難が困難になった場合は、近くの頑丈な建物の高いところへ避難しましょう。それも困難な場合は、自宅の2階以上のなるべく高いところへ避難しましょう。土砂災害の場合、とにかく早めの避難が重要ですが、万が一逃げ遅れた場合は、斜面から離れた2階以上のなるべく高い部屋へ避難しましょう。

土砂災害の危険性が高まり、外が危険で避難できない場合



災害時の避難方法について

避難をする状況になった場合に、どのように避難するのかが重要なポイントです。避難とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、その場所に留まることも方法の一つです。

避難場所等の種類

避難場所等にはいくつかの種類があります。避難場所等の位置だけでなく、その役割について理解し、災害の状況に応じて選ぶことが重要です。

凡例	名称	役割	施設の例
	避難場所(一時避難場所)	避難場所とは、災害の発生するおそれがある場合または災害の発生した場合(緊急時)に住民の安全を確保することを目的とした施設です。	公民館、集会所など
	避難所(広域避難所)	避難所とは、災害により被災した住民が自宅等で生活できない場合に自宅等が復旧するまでの間の生活することを目的とした施設です。	小・中学校など
	福祉避難所	福祉避難所とは、高齢者、障がい者、妊婦、乳幼児、傷病者など、災害時に一人で避難や生活が難しい要配慮者を受け入れることを目的とした施設です。	老人ホームなど

※詳しい施設名や位置は地図面(裏面)をご確認ください。

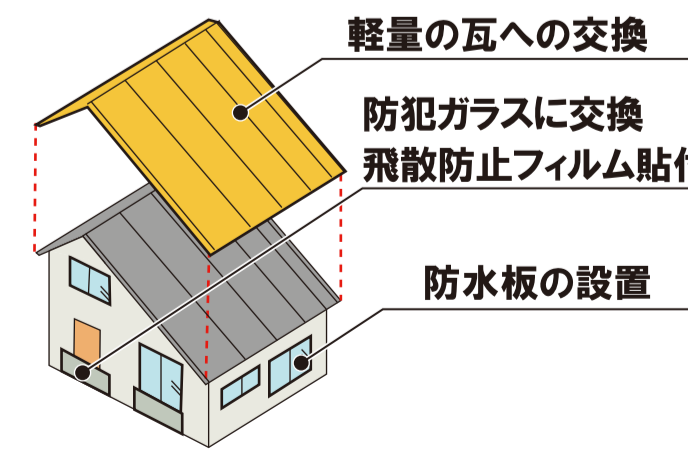
在宅避難

避難所への避難が危険と判断した場合には、在宅避難も検討しましょう。自宅の安全が確保できれば、必ずしも避難所に避難する必要はありません。

注意 少しでも身の危険を感じたら、迷わず避難場所等に避難しましょう。

災害に強い自宅にしましょう

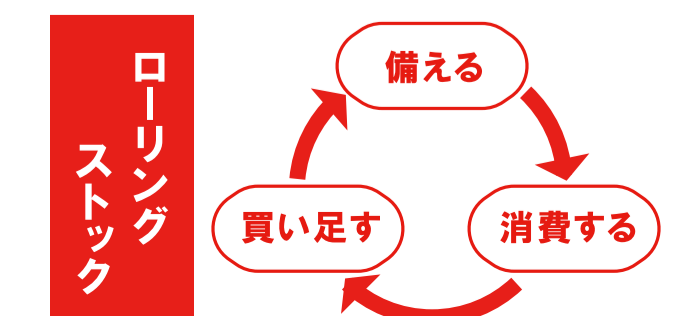
災害時の安全を確保するため、自宅をリフォームすることも、在宅避難では重要です。



無理なく備蓄しましょう

ローリングストックとは、普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、消費期限が近づいたものから消費し、新しく買い足していく備蓄方法です。

- ・一週間分を目安に備蓄
- ・冷蔵庫の食糧を優先して消費
- ・飲料水(1人1日3ℓが目安)
- ・水が無くてでも使えるウエットティッシュや携帯トイレ等の備蓄



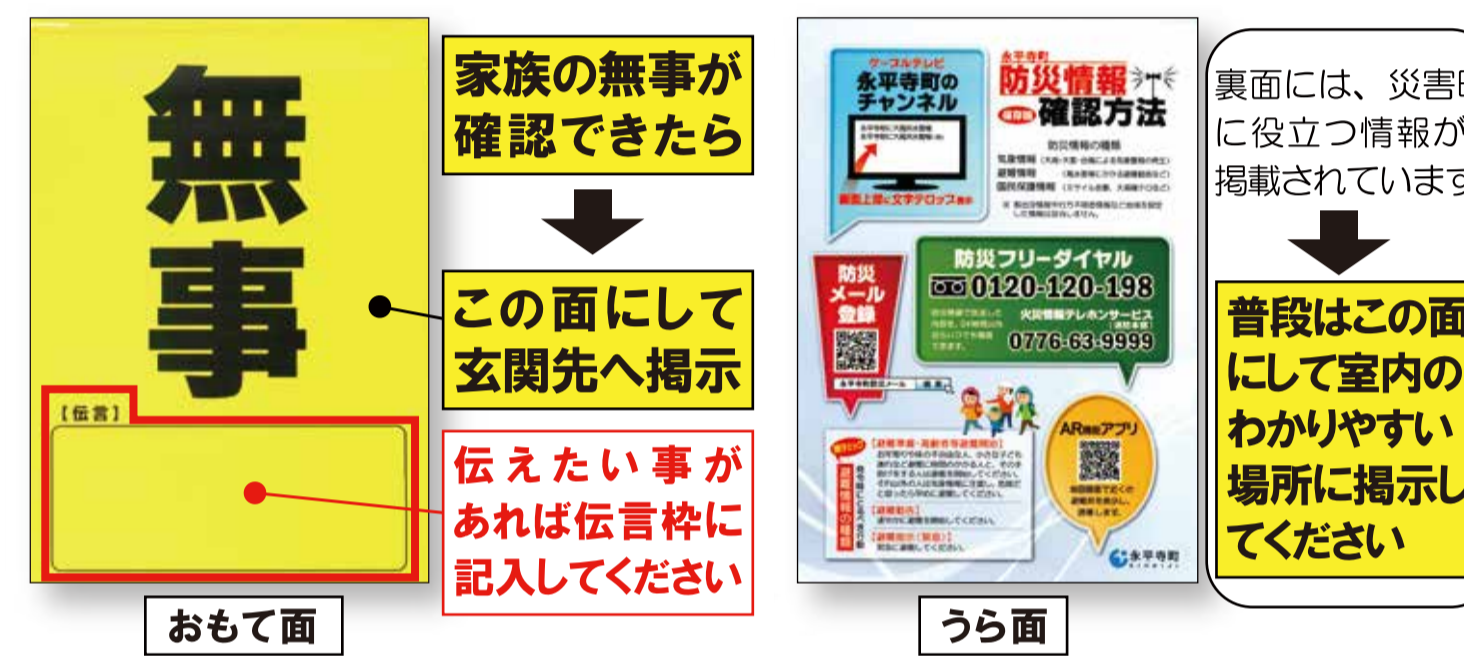
非常持ち出し品のチェックリスト

非常持ち出し品には、食糧品や日用品などの他に、感染症対策として「マスク」や「消毒液」、「体温計」などを追加して準備しましょう。

食料品	貴重品	安全対策	その他
□飲料水	□現金	□医薬品、常備薬	□粉ミルク
□非常食	□預金手帳	□雨具	□ほ乳瓶
	□印鑑	□体温計	□離乳食
		□マスク	□紙おむつ
		□消毒液	
		□ウエットティッシュ	
情報機器類	日用品	照明器具	
□携帯電話	□下着、上着	□懐中電灯	□流動食
□充電器	□タオル	□電池	□入れ歯
□携帯ラジオ	□洗面用具	□ろうそく	□ペットフード
□予備電池		□マッチ、ライター	□トイレ用品

無事旗について

無事旗とは、災害発生時に自宅が無傷で家族の安全が確認できた世帯が、在宅避難の場合などに玄関先など目立つ場所に掲げる旗の事です。災害のあと、被害家屋を1軒ずつ巡回し安否確認が行われます。必要事項を記載し、掲示しましょう。



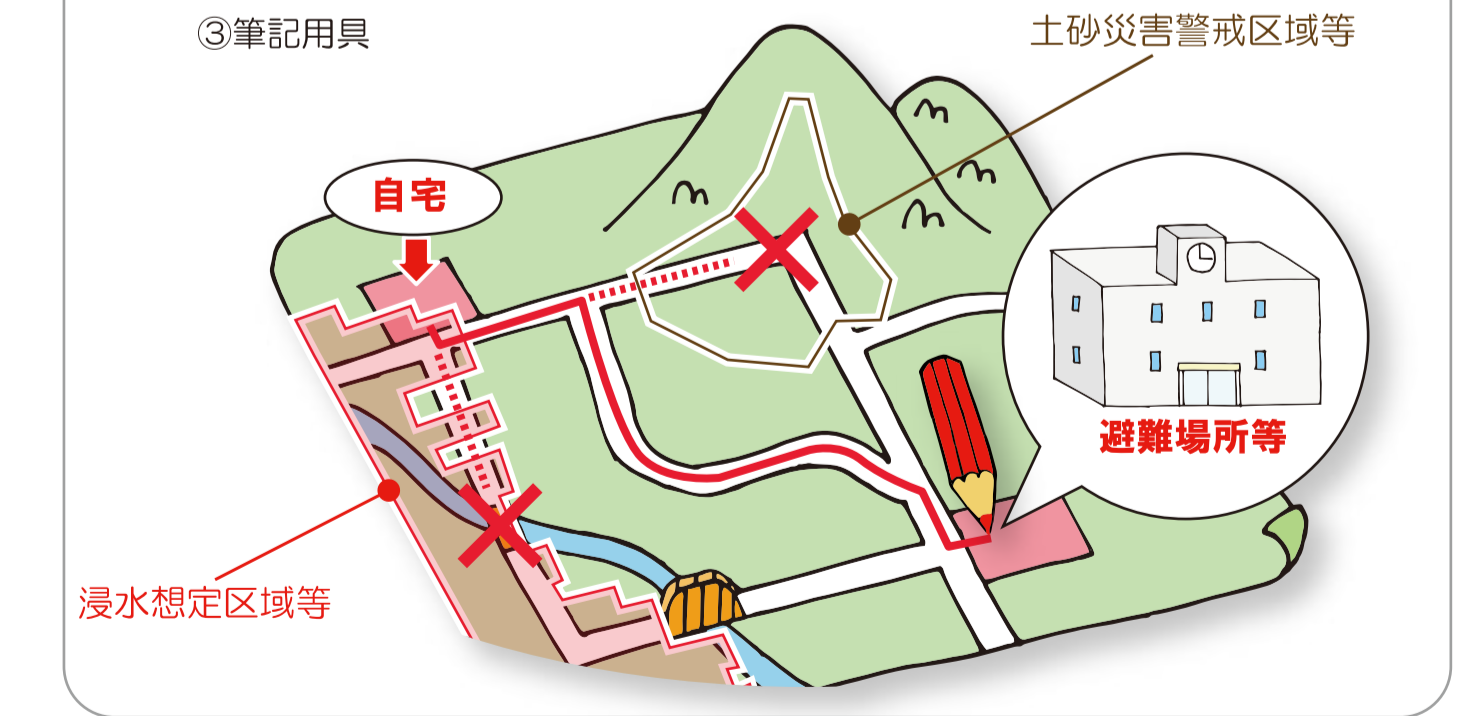
今日からできる防災活動

災害が発生した際には、素早い判断と避難が必要です。災害が発生する前に、普段から防災への備えを行います。

ハザードマップを使ったまち歩き

災害が発生した際には、素早い判断と避難が大切です。災害が発生する前に、普段から避難路を実際に歩いてみる事が重要です。避難路は災害に応じて選べるよう複数決めておきましょう。

1. 自宅の位置を確認する
2. 避難場所等の位置を確認する
3. 自宅から避難場所等までの避難経路を複数決める
4. 最も安全な避難経路を選び、実際に歩いてみる
現地を歩く際は以下のものを準備して、道中の危険箇所など、気づいたことを記録しましょう。
①デジタルカメラ
②メモ帳
③筆記用具



避難訓練への参加

日ごろから、地域の防災に関する行事や避難訓練に積極的に参加しましょう。例えば、避難所の設営などの訓練に参加することで、テントの建て方や、避難生活に必要な物資、避難所の雰囲気などを改めて確認することができます。



写真 避難訓練の様子